Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 19第49号
2020年（令和二年） 3月27日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

3/12~3/18のNYMEX・WTIは、20.37～31.73ドルの範囲で推移した。

3月19日は、前日の18年ぶりの安値を受けて、反動や値ごろ感からの買い、各国中央銀行の相次ぐ金融緩和策を好感し、4営業日ぶりに大幅に反発した。トランプ大統領のサウジとロシアの仲介を示唆した発言、株式市場の回復も支援材料となった。ただ、サウジとロシアを中心とする増産姿勢は固く、先行きの値下がり予想も根強くあった。4月限終値は前日比4.85ドル高の25.22ドル。

週末20日は、新型コロナウィルスの感染拡大による世界経済の減速とOPECプラスの減産協議決裂によるサウジとロシアの増産方針を受けて、大幅反落した。一時は、20ドルを割る18年ぶりの安値を付けた。ベーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は664基と原油価格暴落の影響で前週比19基減の大幅減少だった。4月限終値は前日比2.79ドル安の22.43ドル。

週明け23日は、週末の安値の反動、割安感からの買いで反発した。今日から取引の中心限月となった5月限終値は前週末比0.73ドル高の23.30ドル。

24日は、米国議会で2兆ドル規模の経済対策が打ち出されるとの期待感から、続伸した。株式市場の大幅反発も支援材料だった。5月限終値は前日比0.65ドル高の24.01ドル。

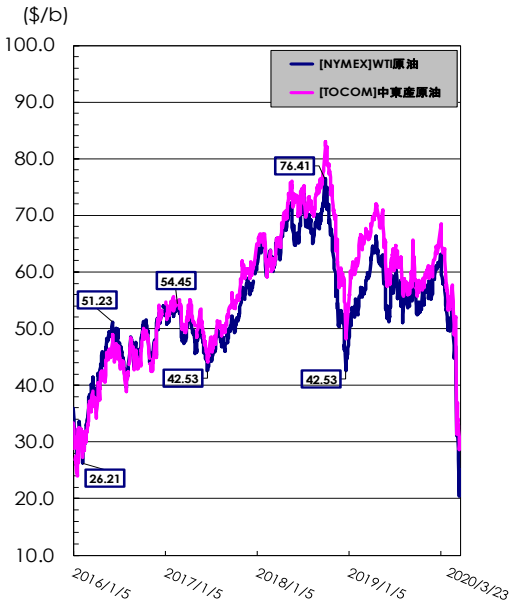
25日は、同日、米政府与野党の新型コロナウィルスに対する2兆ドル規模の経済対策の合意を好感し、3日続伸した。この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報は、前週末の原油在庫が前週末比増加と9週連続の積み増しとなり、米国産油量も増加したことが、上値を重くした。5月限の終値は前日比0.48ドル高の24.49ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）は3月12日～18日の間29.10～32.70ドルの範囲で推移した。3月19日26.50ドル、23日25.70ドル、24日26.90ドル、25日27.20ドルと推移した。

為替は3月12日～18日の間104.60～107.39円の範囲で推移した。3月19日108.98円、23日110.82円、24日110.63円、25日111.16円で推移した。

そのような中で、3月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週比3.9円の値下がり、軽油も同3.6円の値下がり、灯油は54円の値下がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは9週連続の値下がり、軽油は8週連続の値下がり、灯油も8週連続の値下がりだった。この週（3月第4週）の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社3.0円の値下げとなった。

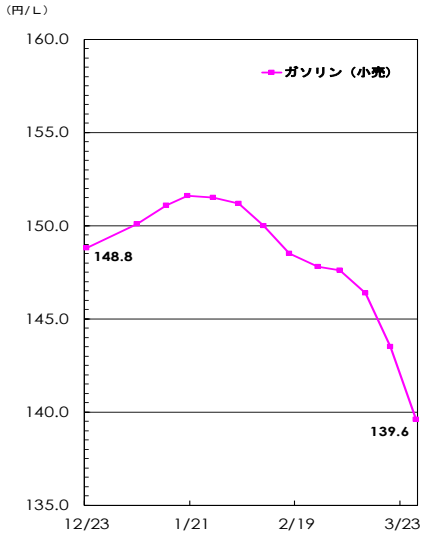
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/15 ～ 3/21	3,137	▼ -95	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	80.1	▼ -2.4	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	3/21	11,798	▲ 560	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/23	30.50	▼ -2.31	▼ -35.1
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/23	23.36	▼ -5.34	▼ -35.5
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	2月下旬	69.84	▼ -0.66	▲ 7.58
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	48,179	▼ -210	▲ 5,245
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	109.69	▼ -0.56	▼ -0.05
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/23	111.82	▼ -3.91	▼ -0.91



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/15 ～ 3/21	859	▼ -92	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	826	▲ 85	▼ –
	輸出		〃	80	▲ 8	▲ –
	在庫		3/21	1,770	▼ -47	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/17 ～ 3/23	40.8	▼ -4.6	▼ -19.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/17 ～ 3/23	32.6	▼ -3.8	▼ -25.0
		(TOCOM/中部)	3/23	38.2	▲ 0.7	▼ -22.3
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/23	139.6	▼ -3.9	▼ -6.0

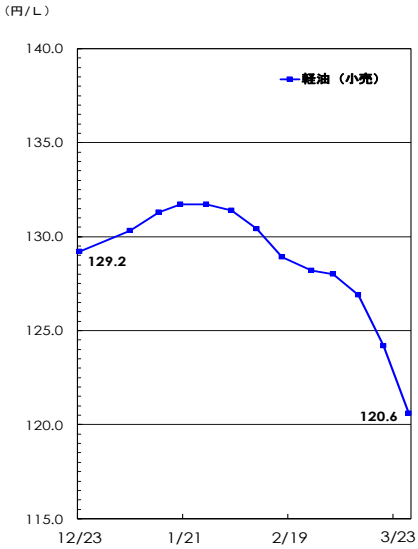
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

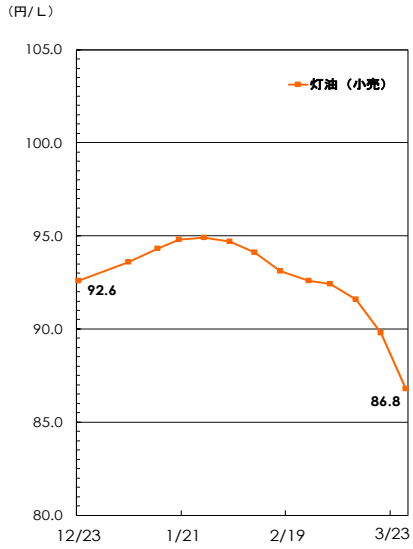
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/15 ～ 3/21	715	▲ 19	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	589	▲ 38	▲ –
	輸出		〃	53	▼ -2	▼ –
	在庫		3/21	1,471	▲ 73	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/17 ～ 3/23	44.9	▼ -6.6	▼ -19.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/17 ～ 3/23	48.4	▼ -3.2	▼ -16.3
		(TOCOM/中部)	3/23	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/23	120.6	▼ -3.6	▼ -5.9

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/15 ～ 3/21	268	▲ 60	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	255	▼ -1	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		3/21	1,391	▲ 12	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	3/17 ～ 3/23	43.9	▼ -5.7	▼ -19.6
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/17 ～ 3/23	37.0	▼ -2.5	▼ -25.7
		(TOCOM/中部)	3/23	38.5	▼ -2.5	▼ -24.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	3/23	86.8	▼ -3.0	▼ -3.1



■ 関連情報

1　海外/原油

3月25日のNYMEX市場WTI原油は、同日、米国のトランプ政権と与野党が新型コロナウィルスに対応した2兆ドル規模の経済対策の実施で合意したことを好感し、3日続伸した。株式市場も大きく回復し、投資家のリスクオフの姿勢が後退したことも、支援材料となった。この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報は、前週末の原油在庫が前週末比増加と9週連続の積み増しとなり、米国産油量も増加したことが、上値を重くした。5月限の終値は前日比0.48ドル高の24.49ドル、6月の終値は同0.96ドル高の27.16ドル。

EIAによると、3月23日時点のガソリンの小売価格は、前週比12.8セント値下がりの1ガロン2.120ドル(62.3円/ﾘｯﾄﾙ)、ディーゼルは同7.4セント値下がりの2.659ドル(78.5円/ﾘｯﾄﾙ)となった。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは11週連続の値下がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2020年3月15日～3月21日に休止したトッパー能力は36.0万バレル/日で、前週に対して8.0万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は313.7万klと、前週に比べ9.5万kl減少。前年に対しては37.3万klの減少。トッパー稼働率は80.1%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては9.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/9.7%減、ジェット/23.9%増、灯油/29.0%増、軽油/2.8%増、A重油/0.4%減、C重油/6.0%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は5.3万kl(前週比0.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は82.6万kl(対前週11.5%増)と2週振りで増加となり、31週連続で100万klを下回った。ジェット10.3万kl(対前週5.5%増)、灯油25.5万kl(対前週0.2%減)、軽油58.9万kl(対前週7.0%増)、A重油19.5万kl(対前週30.1%増)、C重油18.6万kl(対前週21.2%増)。

(単位：千KL)

	今週 (3/15 ~ 3/21)	前週 (3/8 ~ 3/14)	前週比	
ガソリン	826	741	▲ 85	(11%)
ジェット燃料	103	98	▲ 5	(5%)
灯油	255	256	▼ -1	(-0%)
軽油	589	551	▲ 38	(7%)
A重油	195	150	▲ 45	(30%)
C重油	186	154	▲ 32	(21%)
合　計	2,154	1,950	▲ 204	(10%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月21日時点の在庫は、ガソリン、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは177.0万kl、前週差4.7万kl減。前年に対しては16.1万kl多い。

灯油は139.1万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては6.0万kl多い。

軽油は147.1万kl、前週差7.3万kl増。前年に対しては11.7万kl少ない。

A重油は70.1万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては7.4万kl少ない。

C重油は176.9万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては14.8万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (3/21)	前週 (3/14)	前週比	
ガソリン	1,770	1,817	▼ -47	(-3%)
ジェット燃料	887	779	▲ 108	(14%)
灯油	1,391	1,379	▲ 12	(1%)
軽油	1,471	1,398	▲ 73	(5%)
A重油	701	727	▼ -26	(-4%)
C重油	1,769	1,820	▼ -51	(-3%)
合　計	7,989	7,920	▲ 69	(0.9%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月17日～23日の原油価格は、前週比で大きく値下がりし、為替の円安がややこれを相殺したが、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月17日～23日の間、ガソリン93～97円台で大きく値下がり、軽油42～50円台で大きく値下がり、灯油42～48円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン95～99円台で大きく値下がり、軽油44～52円台で大きく値下がり、灯油35～40円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン85～87円台で大きく値下がり、軽油43～50円台で値下がり、灯油34～38円台で大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社3.0円の値下げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

3月17日～23日の製品スポット市況は、3月10日～16日平均と比べ、全油種・全取引で、大きく値下がりした。

直近の陸上スポット価格（3/17～3/23、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは4.6円の値下がり、灯油は5.7円の値下がり、軽油は6.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは5.0円の値下がり、灯油は2.9円の値下がり、軽油は7.5円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが3.8円の値下がり、灯油は2.5円の値下がり、軽油は3.2円の値下がりだった。

3月第5週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.0円の値下げになった。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/17 ~ 3/23)	前週　(3/10 ~ 3/16)	前週比
スポット価格	レギュラー	40.8	45.4	▼ -4.6
	灯油	43.9	49.6	▼ -5.7
	軽油	44.9	51.5	▼ -6.6

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(3/17 ~ 3/23)	前週　(3/10 ~ 3/16)	前週比
先物価格	レギュラー	32.6	36.4	▼ -3.8
	灯油	37.0	39.5	▼ -2.5
	軽油	48.4	51.6	▼ -3.2

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/17～3/23実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -4.6	▼ -3.8	▼ -4.2
灯油	▼ -5.7	▼ -2.5	▼ -4.1
軽油	▼ -6.6	▼ -3.2	▼ -4.9
A重油	▼ -7.0		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比3.9円安の139.6円、軽油も同3.6円安の120.6円、灯油は18㌔㍑ベースで同54円安の1,562円（1㌔㍑ベースでは同3.0円安の86.8円）。ガソリンは9週連続の値下がり、軽油は8週連続の値下がり、灯油も8週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりが47都道府県となった。全国最安値は岩手県の133.9円（同4.9円安）、その次に安いのが石川県の134.0円（同4.2円安）、最高値は長崎県の154.0円（同2.0円安）。横ばいはなし、値上がりもなし、最も値下がりしたのは同7.3円安の北海道（134.1円）だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、8.5～9.0円の値下げとなった。今週も、原油価格は大きく値下がりし、円安がこれをわずかに相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.0円の値下げとなった。次回調査時（3月30日）のガソリン・灯油の小売価格は、値下がりが予想される。

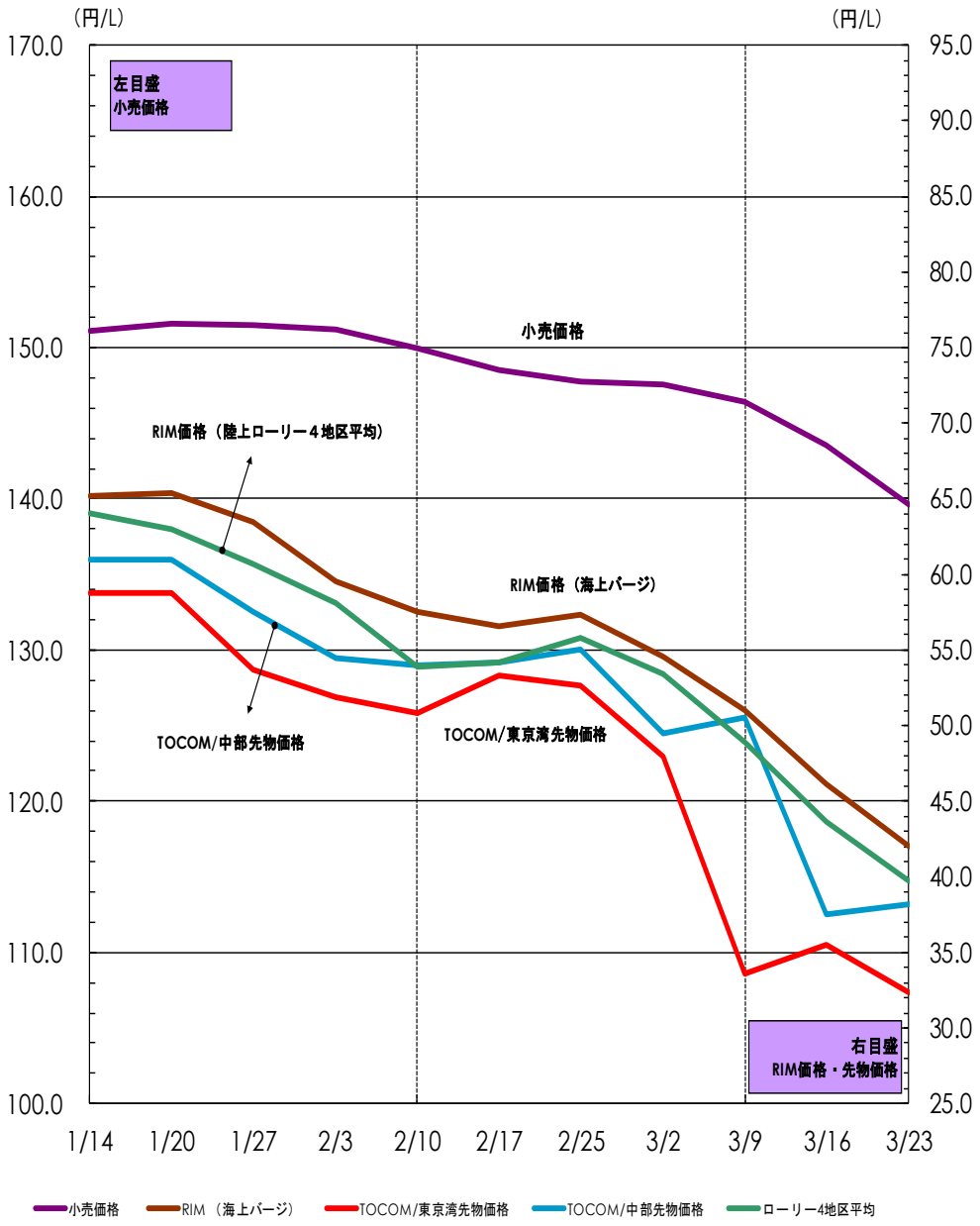
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/23)	前週　(3/16)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	139.6	143.5	▼ -3.9	08/8/4	185.1
	灯油	86.8	89.8	▼ -3.0	08/8/11	132.1
	軽油	120.6	124.2	▼ -3.6	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/1/14　～　2020/3/23)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2020第1号）の公表は、4/3（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和元年9月末現在）は、12月25日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。